令和3年度 教育保育活動等に対する学校評価書

令和4年3月31日

学校法人めぐみ幼稚園 めぐみこども園長 山田典子 学校法人めぐみ幼稚園 学校関係者評価委員長 徳田航介

1 幼稚園の教育目標

昭和22年創立以来、キリスト教の「愛の精神」を根底におき、乳幼児の発達に相応しい心の教育を行っている。共に喜び、共に育ち合うために、保育者は一人一人の内面を理解し温かくきめ細やかな援助を行う。また、主体性や協同性を発揮して遊べる環境を構成し、生きる力の基礎を培うことを目標とする。 平成27年度より幼保連携型認定こども園 めぐみこども園に移行したが、創立の精神は大切に守っている。

- 1. 子ども自身が大切な存在として受け入れられていることを実感し、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れることができる。
- 2. 目に見えない神の恵みを、常に感謝と喜びをもって受け止め、神に愛され、人にも愛され、喜びをもって人と関わることができる。
- 3. 自分と他の違いを認めると共に、友だちと共に喜び、共感できるようになる。
- 4. 主体性を持って心を動かし、探求心、判断力、想像力をもち、創造的に様々なことに関わるようになる。
- 5. 感じたこと、考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現力、想像力を身に付ける。

2 本年度の重点目標(学校評価の具体的な目標や計画)

【重点目標】

- ・教育課程、指導計画の内容を確認し、新たに年間カリキュラムを作り替え、子どもの育ちに着目して計画し、実践していく。また、キリスト教保育の年間主題を「こころが満たされる」とした。
- ・新型コロナウィルス感染症拡大により、状況によっては保育の縮小・自粛等も視野に入れて計画を立てる。マスク着用、手指・遊具等の消毒の徹底。空気清 浄機の活用を行い、子どもの安全確保のため最大限の努力をする。また、発達に相応しい保育の展開について、状況を注視しながら判断し適切に関わる。
- ・保護者や地域との連携を深め、信頼される温かな幼稚園づくりを目指す。
- ・外部講師による絵画造形活動を通して、教員の資質向上を図る。また、様々な行事の内容も見直し、より保護者も園の活動に積極的に参加したくなるような ものにしていく。
- ・特別支援を必要とする園児に対する理解を深めるため、巡回指導の臨床発達心理士から助言を受ける。
- ・新しい教育要領の中にある「卒園までに育てたい10の姿」を研修テーマとし、その姿に向かうための活動を各学年で考え、取り組んでいく。

乳児

- ・母親と離れて新しい環境で過ごすことへの不安を解消し、安心安全に過ごし、楽しさを見いだせるように援助する。
- ・一人一人の生育歴や生活環境、個性を理解し、保育教諭の共通理解を図る。
- ・自立を目的とし、お手伝いを初め乳児自らが生活に必要なことを進んで行えるよう指導、援助を行う。

幼児

- -----・安心感や信頼感が得られる環境の中、友だちの良さに気付き、心も体も動かして意欲的に活動するように援助する。自己肯定感がもてる子どもを育成する。
- ・友だちとのかかわりを深め、協同性を育む豊かな体験や活動ができる保育を創造する。
- ・園内環境に留まらず、近隣の地域環境を利用してより多種多様な経験ができるよう計画を立てる。
- ・小学校教育へのなめらかな接続を視野に、人間関係・コミュニケーション能力、規範意識等を身に付けさせる。
- ・基本的生活習慣を見直し、一人一人の課題について保護者と共に見直し改善に向けて努力する。また、生活力の向上を図るため、お手伝いや運動にたくさん 取り組む。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果評価点は A: +分に成果があった B: 成果があった C: 少し成果があった D: 成果がなかった

		自己評価		学校関係者評価委員会	
評価対象	評価項目	評価点	こども園としての反省と改善策	評価点	意見
保育の計画といて	71 HI H-1 -> 1 4	В	・昨年度同様、新型コロナウィルス感染症拡大により行事、保育内容の削減を行った。このため行事ごとに計画の見直しを図った。安全を第一にを図った。安全を第一にを図った。安全を第一にを図った。安全を第一にを図った。中年度に増して教員一人のアイディアを生かし意に計画を立て実行した。日常の活動でら行事に結び付け、ながることができた。・幼保連携型認定にども園教護を担保での選挙を担保でのできた。の理解を全教職員で改善に繋がる研修を継続していきたい。・毎月「キリスト教保育誌」を担保であり、保育実践での場合のは、おりとできり、保育を選挙を進めた。の時では、日本ののの時がも、保育を選挙を進めた。といる方に、といるの理念や教の手がある。とに教員が前の見直にありまった。園の理念や教育を踏まえが前見直したりまって、より良い保育を子どもたちに提りがある。引き続き、カリキュラムを編成することに教員が前の見直した教材研究を通して、より良い保育を子どもたちに提供できるよう努力していきたい。	A	・今年度は新型コロナウィルス感染症拡大により、行事が縮小されたり、中止となったものもあったが、子ども達の園生活は日々楽しく、充実していたと思う。・毎日、手指・遊具の消毒、マスク着用等に心を配ってもらい、感謝している。・子ども達の日々の生活を垣間見ても、はつらつとして生きと楽しんでいる様子が高されたことでである。そりであらる。その最近よりから、キリスト教保育の温かみを感じる。・「ひびき合う」などの園だよりから、キリスト教保育の温かさや、職員全員が子ども定愛情を注いていることが伝わってくる。・外部講師の影響からか、子ども達が絵を好きになり、楽しみつの集中して描いていることが作品は際だっていた。・母の日、クリスマスなどで、園で作ったプレゼントの質が向上しており非常に感動していた。・母の日、クリスマスなどで、園で作ったプレゼントの質が向上しており非常に感動していた。・アプリ、ブログの導入は有効であり、業務内容が改善されたことは非常に良いと思う。保護者世代は紙面お知りでの配信が身近であるため、今後、園からの記信がアプリでの配信が身近であるため、今後、園からの記信してほしい。

	1				T
			・クラスの担任だけでなく、全教職員が幼児一人一		・全教職員が全員の子どもをよく理解し、丁寧に関わって
	乳幼児の生		人の内面を理解し優しく温かな援助を行い、発達課		いるため、安心して子どもを預けることができる。
保育のあり	活や発達に		題について日々検討している。乳児と幼児の教員の		
方、乳幼児へ	即した援助		コミュニケーションを多く図ることで、異年齢のか		・年長、年中児は自ら率先してやることを見つけようとし
の対応	について		かわりも増し、子ども理解が深まり、教員同士のつ		たり、年下や乳児の世話も積極的に行ったりする姿も見ら
			ながりも深まってきた。		れるようになり、親としても嬉しい限りである。縦割り保
発達障害児	異年齢交流		・異年齢交流の機会を意識的に多く持つことで、子		育ではないが、同じ効果が得られているように思われる。
の援助			どもの育ちにつながっている。大きい子は小さい子		
			に優しく、小さい子は大きい子への憧れを持ち、互		・生活経験や直接体験に欠ける子どもが増えているよう
食育の充実			いに学び合い刺激し合っている。		に感じる中、園側で補おうと努力していることを感じる。
			・子どもたちに片付けや掃除の楽しさを伝え、子ど		・様々な家庭の事情から預かり保育の人数が増えている
			もと共に環境を作り上げるよう心掛けている。家庭		が、充実した活動内容が考慮されており、安心して利用し
			でのお手伝いにつなげていきたい。		ている。おやつは市販のものが少なく、子どもの体に対す
	預かり保育		・預かり保育担当の保育者を増員し、保育内容をカ		る暖かな配慮を感じる。
			リキュラム化した。日中からの遊びや育ちに合った		- ・めぐみこども園は給食が美味しいことで定評があるの
			午後の遊びを計画することで、子どもの活動が充実		で、このまま手作り給食・手作りおやつを続けてほしい。
			し、成長に繋がっている。		また、野菜作りなどを通して食育教育も深めてほしい。
			・新型コロナウィルス感染症拡大により、保護者が		よた、月末下りなどを通じて及自教自己体のではしい。
	行事のみ直	В	来園する行事(親子で過ごす日、運動会、クリスマ		 ・コロナ禍で今年度も行事が縮小・中止されたことは残念
			ス会、感謝祭、夏祭り等)の縮小、また中止せざる	Α	であるが、日々の保育を充実させ、行事に代わる活動を園
			をえない状況であった。しかし、保育の充実の観点		が試行錯誤し実施している様子が伝わってきた。子ども達
			から、様々に工夫を凝らし子どもの成長に繋げた。		の成長を如何に促そうとしているのか努力が感じられた。
	A -4-		しかし、保護者との対話の機会が減少し、連携が難		の放大を如門に使てりとしているのが劣力が感じられた。
	食育		しかった。		. フドナ 法が十分をわマフレチ いりわので 人名ナウ人笠
			・給食は勿論のこと、おやつも給食室で手作りを基		・子ども達が大好きなアスレチックなので、今後も安全管
			本としている。メニューを伝え、料理に合ったカト		理に務めてほしい。
	/D 5th	指	ラリーを選ばせることで食事のマナーも学んでい		・発達障害の子どもの研修は今後も継続して行ってほし
	保健•安全指導		る。		い。また、巡回指導のカウンセラーの指導があることは、
			・毎朝、園庭の遊具の安全チェックや砂場の衛生管		教員だけでなく保護者の安心につながることだ。保護者の
			理を行っている。		子ども理解も深まっていくことを望んでいる。
			・特に乳児には注意を払い、室内の衛生管理、安全		
			管理を日々チェックしている。		
	障害の特性		・幼児は別館と本館の間に公道があるため、交通安		
			全教室で道の渡り方を指導してもらい、お散歩や帰		
	や個別の支		りの道でも子ども自身が注意を払えるよう教員が		
	援方法につ		指導している。		
	いて		・巡回指導のカウンセラーによる個別指導の下、具体的な		
			手立てを保育者間で共有し、保護者と面談してもら		
			うことにより、保護者の子ども理解が深まり、子ど		

			もの成長がみられた。また、外部の支援施設に通所 している園児が増えてきた。施設の教員の訪問を受 け入れ、園、家庭、支援施設の3者で共通理解を得 て子どもの育ちにつなげている。		
	友か深をや環といたから育充境援でから、おり同体し工にとり同体し工に	A	・一人一人が自己発揮できる場面や友だちの良さを 認め合い仲間づくりができる環境を設定している。 また、友だち同士のかかわりを深め、一つの目標に 向かって協同する体験や活動ができる環境を整え たことで、自信を持つ姿が伺えた。 ・園外保育などで思い切り体を動かす経験、豊かな 自然に触れ合う機会を多くもつことで、情操教育に 繋がりクラスの一体感が生まれた。このような機会 を通して体力向上、道徳性や豊かな感性の芽生えに も繋げていきたい。	A	・園での積み木遊びや砂場でのダイナミックな遊び、アル チックでの活動を見ていて、充実した園生活と感じる。子ど もはこのような遊びを通して、友達の良さに気づき、アイ ディアにも共感して、仲間意識が生まれると感じた。 ・園外保育はスクールバスの活用で、体験活動の幅が広がり充 実した時間を過ごしていると思う。園庭が狭いので、広々 とした場所での活動は有意義である。コロナ禍で制限され た活動が多い中、自然の中で思い切り体を動かせることは 子どもにとっても良いリフレッシュとなった。 ・野菜作りから食育体験へと繋げていく活動も意義深い。 また、プランターや鉢植えの花も子ども達の手で植え替え をしたり世話をしており、情操教育として有効である。
小学校教育・ 家庭との連 携について	規範、小の接をでいる。	A	・保護者アンケートが、家庭での生活を知る良い機会となった。小学校生活に向けて不安を抱えている保護者か多く見られたが、子ども自身は例年に比べとても自立している。 ・体力作りとお手伝いが生活力の基盤となるため、ほぼ毎日、園庭においてアスレチックを活用したサーキット運動を実施した。また、時間の意識、持ち物の整理整頓など基本的生活習慣を見直し、「できることは自分でやる」ことで、自信をつけるための研修を重ね実行した。・公開保育を実施し、小学校の先生方へ当園の保育や子どもの実態を見て頂く機会とした。・5歳児は近隣の小学校訪問をして1年生の授業参観をし、小学校の雰囲気を味わったことは有意義な経験となり、小学生への意識が高まった。・交通安全教室を通して、通学の心得や安全な歩行について学ぶ機会をもった。	A	・多数の小学校へ入学することをふまえて、様々な「生きる力」を育み保育していくことで、こども園で培った学びや道徳性などが、小学校以降の生活や学習に生かされていると思う。 ・小学校を見学しただけでも、子ども達は学校への意識が高まると思う。小学校の先生と連携を深めてほしい。 ・教職員が近隣の小学校へ授業参観に行って、卒園生を励ましていると伺い、とても意義深いことと思う。今後も継続してほしい。 ・近年、子ども達を取り巻く環境が様々に変化して、生活力の乏しい子どもが増えていると思う。子どもだけでなく、子育てに自信が持てない親も多い。園では子どもと親の両者が学べる場として教育を提供してほしい。

教のから を を を を の か で を で を の の で を の の の の の の の の の の の の	専門の義務 という という という という という という はい	A	・教師としてのプライドを持ち、園外においても言動に十分気を付けている。 ・組織の一員として各々の役割を果たし、教職員同士尊敬の気持ちを持ち人間関係を大切にしている。 ・子どもを取り巻く社会情勢に常にアンテナを張り巡らせている。 ・個人情報等守秘義務は遵守している。 ・今年度も新型コロナウィルス感染症拡大により、多くの研修会が中止となり、リモート研修が主流となった。直接講師から講義を受ける研修のほうが意義深いと感じるが、研修を受けられることは保育者の資質向上につながる為、受講を促している。 ・保護者には誠実な態度をとり、子どもの育ちについて理解と協力を頂けるようコミュニケーションをとっている。 ・保護者からの意見は真摯に受け止め、園長はじめ教職員で話し合い、改善できることは即実行に移している。 ・お散歩マップを作成し、地域の道路や施設(公園など)の環境を把握し、自然のみならず安全面に関しても注意深く見直しをした。	A	・めぐみこども園の教職員であることを常に心に留めて建学の精神を大切にしていくことで、地域の人々から信頼される園になる。卒園生もこの園をずっと愛し見守っていることを忘れないでほしい。 ・今年度も新型コロナウィルス感染症拡大により、園へ行く機会が減少したため、教員と親しく話す機会がほとんどなかったことは残念であった。(1号認定児) ・桜橋工事に伴い、園周辺の道路の交通量が以前に比べて増加している。園から出かける時、散歩等は十分気を付けてほしい。
--	--	---	---	---	---

新型コロナ	登園・出勤に		・検温カードを作成し、毎朝検温して記入したもの		・今年度も園児全員がマスク着用、手指消毒をした効果か
ウイルス感	ついて		を持参する。体調に変化がある場合、体温が37.5度		大規模なクラスターが起きずに済んだと思われる。マスク
染症対策			以上ある場合は、登園・出勤をしない。		着用による弊害等もメディアでは取りざたされているが、
			・教職員・幼児は必ず不織布マスク着用を呼びかけ、		園の様子を見ていると効果があると感じている。
			全員が実施した。乳児は窒息の危険性から着用して		・食事中のパーテーション設置は大変なことであり、黙食
			いない。(文部科学省からの通知を遵守)		を子どもたちに強いることは心苦しいが、保護者としては
			・登園・出勤する際、門でアルコール消毒を徹底し		感染の心配がかなり軽減される要素となっている。
			ている。また、入室時・給食・おやつ前には手洗い		・感染者が出た際の対応は適切であり、学級閉鎖も致しか
			うがいを徹底した。		たないことだと感じた。濃厚接触者の定義が厳しく、マス
			・幼児は2学期より、給食の際にパーテーションを		クを着用していても同じ空間にいた園児全てが対象との
	給食時		設置し、1テーブル3~4人で食事をし、黙食を呼		なってしまうのは少し疑問に感じた。仕事をしている母親
					なってしょうのは少し焼雨に恋した。仕事をしている母親 への負担は大きいと思う反面、この状況では園と保護者双
			・通園バスは乗車前後に消毒をし、園児は1座席に		方が協力せざるを得ないのかもしれない。行政とのコンタ
	通園バス				
		_	1人が座り、窓を開けて走行した。	٨	クトを蜜にとって適切な対応を続けてほしい。
	行事	В	・保護者参加の行事は蜜を避けるため、園児1名に	A	・集団生活における対応は注意と対応が必要だ。今後も最
			つき保護者1名のみの参加に限り、日程を分散して		新の情報をキャッチして子どもたちが安全・安心して過ご
			実施するものもあった。		せる環境を整えていってほしい。
	迎え時の保		・感染が拡大している時期は保護者のお迎えをピロ		
	護者対応		ティーまでと限定し、園舎内には立ち入らないよう		
			にした。		
			預かり保育の迎えはできるだけ早い時間に来るよ		
			う協力を仰ぎ、18時以降の延長保育は実施を停止し		
			た。		
	感染者が出		・園児に感染者が出た場合は、幼保支援課に連絡を		
	た場合		し、指示を仰ぎ、速やかに全保護者へ連絡し、学級		
			閉鎖措置をとった。閉鎖が長期化するような感染拡		
			大は起こらなかった。		
	遊具・玩具の		・遊具や玩具は毎日消毒を行っている。		
	管理		・乳児用玩具は紫外線消毒庫で消毒を行っている。		
			・和兀川州県は米沙隊旧母牌で旧母で17つ(いる。		